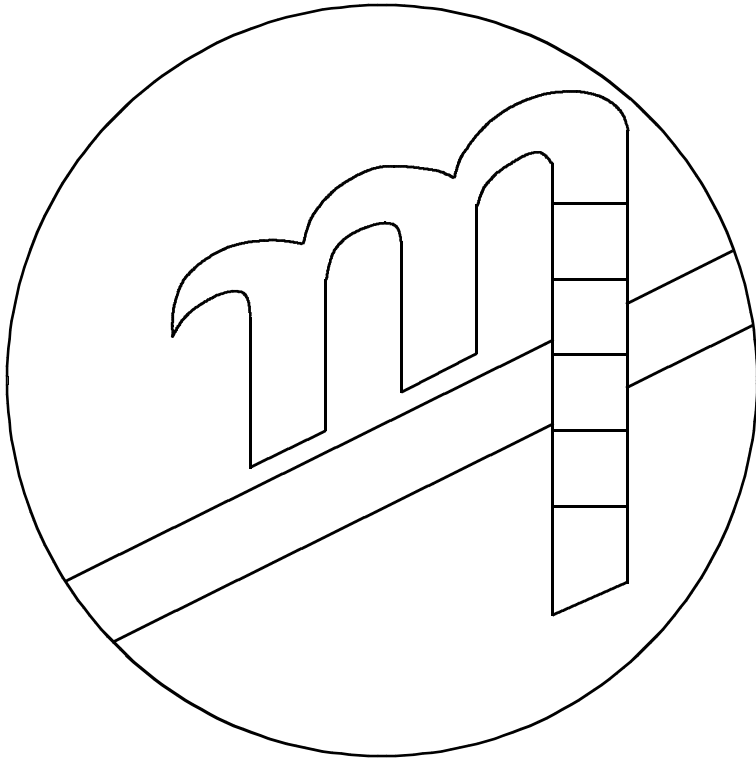


平成4年10月

みずほクラブへら鮎会

二十五年のあゆみ



(日本へら鮎釣研究会みずほクラブ支部)

一、 みずほクラブ二十五年の歩み

みずほクラブへら鮎会 名誉会長 植木 義夫

二、 随 想

1. 発刊に寄せて
トーナメント戦の思い出
初代会長を偲ぶ
へら鮎釣の思い出
みずほへら鮎会創立二十五周年へ寄せて 「思い出」
私の釣りとストレス 「水」三題

日本へら鮎釣研究会 理事長 帷子 和夫
日研みずほクラブ 支部役員 降野 秀二郎
" " " " 荻野 登茂吉
" " " " 加藤 威好
日研みずほクラブ 支部長 山岡 延美
" " " " 山本 勝喜
" " " " 栗原 勇喜

三、 みずほクラブ年表

- 1. 二十五年の歴史
- 2. 大会委員長一覧
- 3. 春季秋季大会優勝者
- 4. 大型賞記録
- 5. 二十五年間の月例会及び年間ベストテン一覧
- 6. 各年総合成績表
- 7. 会員の移り変わり
- 8. 月例会皆勤度数一覧

四、 あと書き

二十五年の歩み

一、 生い立ち

二、 みずほクラブの誕生

三、 釣り場

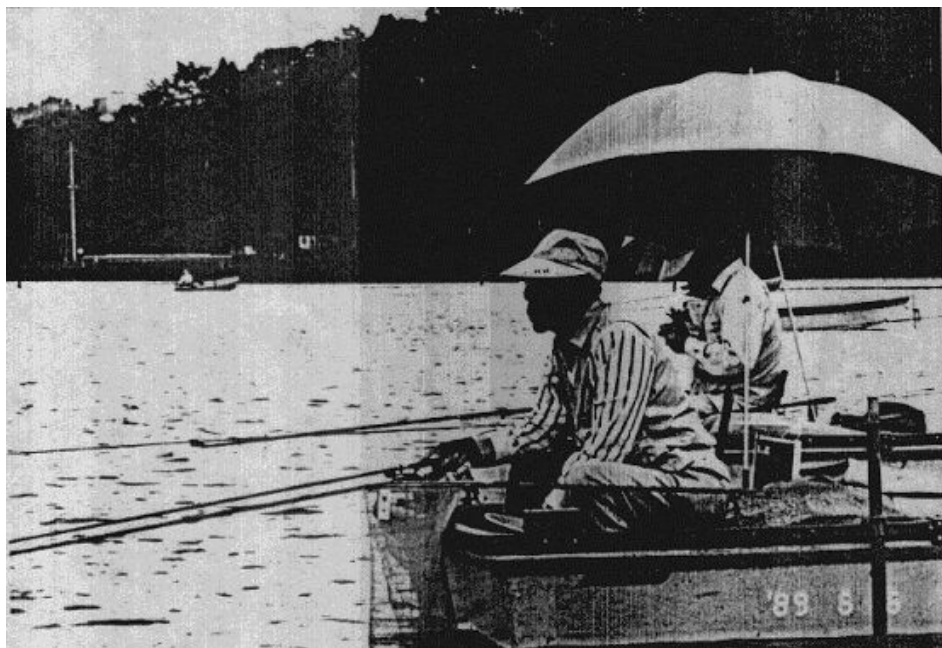
四、 釣り堀から管理釣り場へ

五、 野釣りの哀徴

六、 餌の変遷

七、 続 みずほクラブの動向

みずほクラブへら鮎会
名誉会長 植木 義夫



一、 生い立ち

第二次世界大戦は日本の無条件降伏で終戦となったが、その後国内の混乱は想像外のものであり、その日その日を暮らすのに精一杯で娯楽に、スポーツに目を向ける余裕すらなかったものである。

然し、稍々年月が経るにつれ多少余裕も出てきて、竿を握る気持ちとなり、タナゴ釣り、ヤマベ釣り、フナ釣り等季節々々によつて対象魚をかえて楽しんでいたのであるが、そのうち釣り好きの二三人が集まって釣り会を結成したのが、日研草加支部の前身である草加釣友会であった。

その頃の釣友というと大阪屋薬局の主人竹内氏、豊島屋菓子店主の石鍋氏、藤城氏、現草加支部相談役である山崎氏が草加タクシーの事務所を根城にして集まり夜遅くまで話し込んだものである。

その頃関西西地方でへら鮎釣りという釣りがあり、大型の鮎をウドンで釣っているとのことであったが、関東でも土肥伸先生著の極薄っぺらな「へら鮎釣り」教本が出版されていたので、この教本をもとに独学で試行錯誤をくり返していたものである。

二十五年頃、その「へら鮎」のみを対象にした「日本へら鮎釣り研究会」という釣会が東京にも出来つつあるとのことなので、早速事務局長の岡本魚水氏に入会の手続きをした。

その後たまたま山崎氏と釣友会の会合の際同氏も入会したことを知り話が弾んだものである。

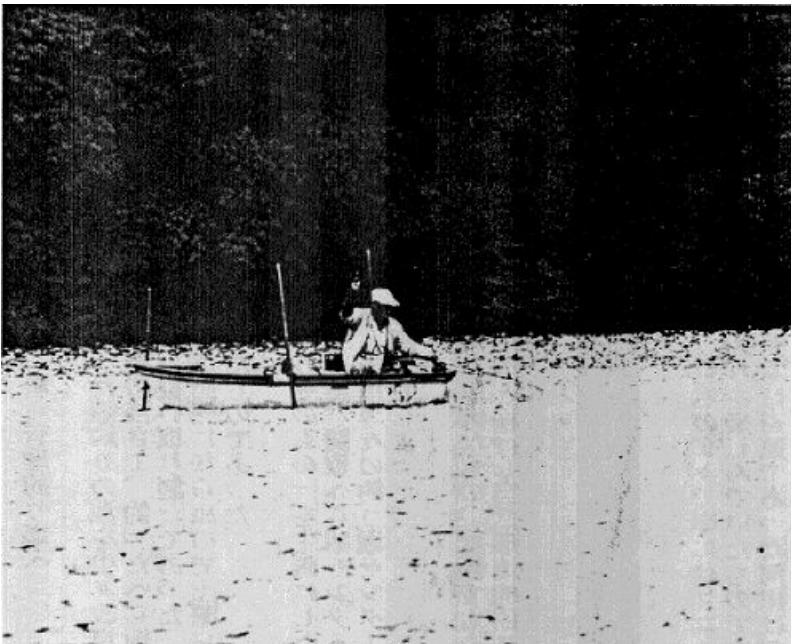
二十五年の末頃、日本へら研が支部制を取ることになったので草加釣友会も草加支部として加入することになり、釣友同和会をはじめ浅草、川口、荒川、東葛、東横、船橋等十七支部で発足した。

その後急足に会員も増加し、今日の隆盛な日本へら研の基礎を築いたのである。

二、 みずほクラブの誕生

昭和四十二年、草加支部内にも色々の事情が生まれ、何回かの話合いの末、円満に草加支部から分離して新しく「みずほクラブ支部」として支部長に山田晴重氏を推し発足した。

会員は草加より分かれた三十三名と新たに入会した十一名を加えて四十四名である。



三、釣り場

その頃の佐原向地と云えばへら鮒つりのメッカで、その佐原に行くのには一泊するか朝一番の列車で佐原駅か神崎駅まで行き、あとは歩いて目的地に行ったもので、貸切りバスの利用といっても現在のような豪華なものではなく一時間も腰掛けていれば体中が痛くなるような代物で、然も木炭を燃料にした木炭車で、途中木炭を炊き直したり火力が弱くてエンコする等、目的地に着くのが一苦勞であった。

前夜（十一時か十二時）の出發が普通で、運が悪いと八時、九時になつても目的地に着かぬことがしばしばであった。

だから佐原に行くといふことは誠に大変なことでもあり、また楽しみにしていたものでもある。

その頃の釣り場は「江湖」が主体で流れのある新利根や横利根はみな敬遠していた。

釣り場としてはグル川、バナナ、大重、中島屋エコ、筈大江湖、小江湖、ナベ鶴、与田浦、前川、与助、乙女エコ、野田奈川、上の島新川等々、みな流れのある場所は敬遠されたものである。

自家用車が手軽に入手出来るようになってからは遠隔地の釣り場にも遠征したもので、遠くは秋田、能代方面、北陸では片山津、木場潟北潟湖、名古屋周辺では松の湖や筏川等にも釣行した。

当時遠隔の釣り場は釣り人の羨望の釣場だったが、近くにもまたよい釣り場も多くあり六間川や八間川、野田の目吹、水堰橋等今では余り顧みられないがみな釣行したものである。

四、釣り堀（箱づり）から管理釣り場へ

当時のつり堀は従来からあつた鯉釣りの池を少々改良したもので、深さはせいぜい四尺程度の浅さで、釣つたへら鮒は釣り堀の主人が買い取ってくれた「買い取り制」であつた。

そのため余り多く釣られては商売にならぬので土曜日の夜などは窃かに水位を上げ下げしたものであつた。

そのような箱釣りから「釣りそのもの」を主眼にしたものとの要望から日研の指導のもとに、関東へら鮒センターを初めとして水元、桃源郷、川越、吉川等々の釣り堀センターが続々と出現し釣法そのものをも変えてしまった。

その後自然を加味し、釣場も広大なもの、女性でも心おきなく釣りが楽しめる管理釣り場へと移行し自然環境的釣り場となつて現在に至っている。

五、野釣りの衰微

終戦直後の日本の河川は、自然のままに岸にはマコモが繁茂し綺麗な水が流れていて野釣りを楽しんでいたのであるが、化学工業全盛時代を迎えてからは綺麗であつた河川は忽ち汚染され、川岸は殺風景なコンクリートで護岸、蛇行していた川も直線化、湖沼は米の増産のもとに雲散無消して水位の増減が激しく魚の住みにくい処となつてしまった。

このような状態から「野釣り」が出来にくくなり自然に衰微し、今は昔の面影すらなくなり誠に残念でならない。

然し昨今横利根が放流と管理に力を入れた結果、復活しつつあることは本当に嬉しい。

六、 餌の変遷

関東にへら鮎釣りが流行し始めた頃の餌といえれば総べて関西をまねたもので「へら鮎釣りの餌はウドンでなければならぬ」とされていて、我々もこれを守っていたが、そのうち薩摩芋の練ったもの、誰ともなく浅草雷門の「ふな和」の芋羊羹でも釣れる、然もウドンよりよいとの噂が広まって使い始めた。

その頃である「土肥伸のイモ論争」との見出しで、大論争が続いたが結果はサツマ芋の全盛となったのである。

然しこのサツマ芋の入手に手を焼いている時ジャガイモもよい餌になることが判ったが、その切っ掛けは精進湖周辺にはサツマイモがなくその代用として用いた処、好結果だったのである。

そのうち食糧として「マツシユ」が市販されこれがブームとなって、それ以後のへら鮎の主餌は「マツシユ」となったのである。

へら鮎の餌は長い間マツシユ一本で通していたが「マルキュー」や「ふまつげん」等のメーカーから麩系統の餌が出現しブレンドすることによりより一層の釣果を得られることから、種々の餌が数限り無く出現するようになった。

その麩系統の餌だけではバラケ過ぎて「カラツン」が多く、釣果が伸び悩んでいた時上野喜楽の主人、高頭氏がグルテン入りの餌（餌名は忘れた）を売り出し大評判になった。

それ以後、グルテン入りの餌も麩系統と同様、へら鮎の主餌の一員に加えられる釣行には必ず携行するようになった。

七、

続 みずほクラブの動向

昭和四十二年、草加支部から分離し「みずほクラブ」になった時の会員は四十四名で五十年には最高五十九名を数えたが、それ以後極端な増減はなく現在に至っている。

その詳細は年表に掲載されている通りだが、当会に籍をおいた会員は現会員の外退会された会員は実に五十九名を数え、今更乍ら多くの会友と交誼を結んでいたのには感無量のものである。

中でも山田晴重先生、山岡弘二郎氏、宇田川学氏、ぺんてるの平間、矢萩、加藤の三氏、浜町金座の創設者でもあった岸周史等また分離時、行を共にした会田尚之、会田昭平、役員としても活躍していた星野実氏、また三十六年入会の小林貢氏等々がいて現在でも釣りを楽しんでいらっしゃる方が多数見受けられるのも心強い。

二、 随 想

- | | | | | | |
|----|--------------------|-----------|------|----|-----|
| 一、 | 発刊に寄せて | 日本へら鮎釣研究会 | 理事長 | 帷子 | 和夫 |
| 二、 | トーナメント戦の思い出 | 日研みずほクラブ | 支部役員 | 降田 | 秀二郎 |
| 三、 | 初代会長を偲ぶ | 〃 | 〃 | 荻野 | 登茂吉 |
| 四、 | へら鮎釣の思い出 | 〃 | 〃 | 加藤 | 威 |
| 五、 | みずほへら鮎会創立二十五周年へ寄せて | 〃 | 〃 | 山岡 | 延好 |
| 六、 | 私の釣りとストレス | 日研みずほクラブ | 支部長 | 山本 | 勝美 |
| 七、 | 「水」三題 | 〃 | 支部役員 | 栗原 | 勇喜 |

みずほへら鮎釣研究会が、昭和四十二年に創立されここに二十五周年を迎えられましたことを心からお祝申し上げます。

私も当時を顧みますと本会の創立に、初めから関わりを持った一人でもあり感慨深いものがあります。

と申しますのも本会は、歴史と伝統のある親会草加支部に創立当初の会員が全員在籍し、話し合いにより円満に独立する事が出来初代山田晴重会長（故人）、そして現二代目植木義夫名誉会長を中心に合議制を運営の基本理念として、役員は無論のこと各会員の献身的な努力の積重ねがあつて、喜びの年を迎えることが出来たと思ひます。

その間のご心労に対し心より敬意を表する次第でございます。

さて日本へら研も平成二年に創立四十周年の節目を迎え、更に五十周年に向けて会員各位の深いご理解と絶大なご協力を頂き、本部事業の中心支部基盤の充実拡充並び釣場確保にともなう放流事業、そして釣技マナーの向上また二十一世紀を担うジュニアの育成等々諸事業を推進し、現在のへら鮎釣り界の興隆に寄与しております。

申すまでもなく本会はへら鮎釣り界では、日本一の組織を持つておりますことは紛れもない事実です。

その確固たる地位を確保することが出来ますのも、各支部会員同志が強い絆で結ばれているからで、誠に素晴らしいことでございます。

私も本会が二十五周年の節目を迎える時に、理事長の大役を拝受することと相成り偶然とは云へ時の流れを感じます。

新体制で日本へら研の限り無い発展を常に願ひ、皆様方と共に英知を結集し出来る限りの努力を傾注してまいる所存でございます。

日本へら研を愛する気持ちは私も皆様も同じだと信じ、自信と誇りを持って精進と努力をされまして三十周年、四十周年に向け大きな会

に成長されます様ご期待を申し上げますと同時に、会員各位のご健勝と併せて限りないご多幸を心よりご祈念申し上げます。お祝の言葉とさせていただきます。

“ 本当におめでとうございました。”

新利根川幸田、釜井橋間での対戦どうにも型を見ることができず、ポイントを探して幸田、釜井を一周してオデコ、骨折り損のくたびれ儲けとはこのことか、情けないやら悔しいやらでもほかの選手の頑張りで、我がチームの勝利に終わりほっと一安心。

キャプテンを引き受けて古河のお化け沼での対戦、相手のキャプテンをマークして舟着けし珍しく付近で一番釣り上げてしまった。

俺でさえ釣れたんだから今日は楽勝と喜んでいたのでつかの間、検量結果我がチームの負け。

新利根川での対戦、丁度具合のよい足場が出来ている、シメシメと喜んで足場を渡っていくうち、足場の材木グルリト一回りして「ドボン」腰から下がビショヌレ。

ヌレついでにガツチリした足場を造り上げ珍しく十数枚を釣り上げ今日は勝ったぞと喜んだが、検量の結果僅かの差でまけてしまう、俺が釣ると負けになるジंकウスは破れなかったのか？

草加支部での最後の年の準決勝戦、対戦相手は大型を揃えたのに対し我がチームは型が小さい、相手チームより検量する、相手チームは勝利を確信してかそのまま放流してしまう。

ところが検量の結果は同貫、再検量すれば判らなかつたが数の差で勝ち、決勝戦では六チーム中最下位。

みずほクラブ結成の年選手の皆さんが頑張り決勝に進むことが出来一安心、決勝では前年に続いて六チーム中最下位。

本会の山岡さん、例会ではあまり釣りもせずトーナメント戦ではよく釣って来てくれたのを思い出す、誰からもともなく「トーナメント男」と呼ばれていたが、今から考えると遠い過去の思い出になってしまった。

みずほクラブ創立二十五周年を迎えて、栗原編集員より何か思い出の記を書く様にとの御命令を受けてしまった。

二十五年の間には色々な事が有って中身は濃いのだが、いざ書こうと思うと性来の筆不精が災いして美味く行かない、困ったものです。

思えば昭和三十六年秋草加支部に入会、一匹狼から団体の釣りの面白さを知り、以来脇目も振らずに此の道一筋。

それにしても、二十三年連続の会計係は我ながら長すぎると思うのだが中々楽をさせてもらえない、何方か会計不信任案を出されてくれると嬉しいのですが、こちらの思うツボには嵌まらない。

兎角無事に務められたのも会員の皆さんの御協力が有つたればこそと感謝している次第です。

ここで創立間もない頃のお話を一席。

初代会長の山田晴重氏、越谷市立中学校の校長であったが、間もなく退職、まだまだお元気で、何しろ西湖等の陸釣りで二十四尺の超長竿（竹竿）を一日中振り回しても平然としていて、若いもの顔負けなのである。

そして何時でも出撃態勢が整っており、お呼びの掛かるのを待っている。

その当時、管理釣り場は無く冬場の釣りはハコ（釣堀）で日向ぼっこしながら十枚も釣れば上等の時代、釣れなくても気分を味わいたくて野釣りに出掛ける事が多かった。

或る年の一月中旬から二月の厳寒期にかけて連続四週二人で新利根川下流の最深場に挑戦、私も時代の要請に依えて竹竿の二十一尺を購入。

買ったとなると早めに使ってみたくなるもの、前日先生に誘いの電話を入れると待つてましたとばかり喰い付く。

翌朝五時ジャスト大相模のお宅に向かうと、未だ暗いのに松の木のある構門の前に立っておられる。

当時は現在よりはるかに寒さも厳しくて、お気の毒なので次回からはお家の中に居て下さいと申し上げたのだが、次の週は五分前、三回目は十分前に着いたのに矢張り門の前で立ちん棒。

釣りに行ける事が嬉しくて仕方がない、寒さなんか感じないということか、そう云えば二代目会長もよく似ているなと思うが、如何なものでしょうか？

それで釣果の方はどうであつたかというと、四回も通つたのによく覚えていないのである、おそらく型を見た程度で有つたろうと思う。

その頃、新利根川松屋舟宿の親父さんがお客に対して、マッシュポテトにマヨネーズか何かを加えて練つたエサを使えば、絶対に釣れると講釈していたのを思い出したが、そのエサを二人が作って使用したかどうか記憶に無い、ベテラン会員の方ならご存知の話であります。



へら鮒釣りを初めて三十年あまり、良く飽きずに今まで出来たと、自分でも感心する。

釣りの緊張感と感激が体にしみ付いて、又釣りに行く、何年釣りをしても特別技がうまく感じる訳でもないのに、魚の引きが五感をかけ廻る感覚は釣りをしない人には到底理解出来ない世界だと思う。

仕事の疲れもほど良い釣りの疲れで頭の中がからになる、釣りを趣味にして良かったとつくづく思う今日この頃、次から次に懐かしい釣り場が思い出される。

それにしても佐原水郷の変わり様は胸が痛む、自然を愛し自然の中に身をおいて楽しむ、私たち釣り人は釣り場の美化と自然環境に、理解と運動を押し進める時だと思う。

印象深い釣り場の一つに印旛沼がある、朝もやの中マコモをかき分け釣り場に急ぐ、胸の高ぶりを押さえ朝のコーヒー一杯……、気がつくとき空は明るく靄が一気に消えて、東の空の美しさに見とれてた時朝靄の色（フオグカラー）の原稿に結びつき、仕事に役立ち大きな釣果だった。

また遠征の釣りも楽しかった、片山津の釣り……串川で小出さんのばらしたへら鮒が対岸の私に向かって跳びはねた、そのへらの大きかった事五十センチ有余の正に私が今までに見た中で最大級だった。

後で聞いたら興奮して私に話した、竿と魚が一直線になって竿先が一瞬抜けると思ったと……！この時に見たへら鮒は私にとって幻のへらとなった。

秋田八郎潟の釣は、陸奥の人情と伝説にふれ最上川の雄大な流れと景色は、今でも臉に焼きついている。

白竜湖は幾ら釣っても十五センチ以下、頭にきて釣りをやめ赤湯で飲んだ酒の美味しかった事、地酒の味が忘れられない。

喜多方川前のガマの中を釣りして大型との引ぱりっこ、十枚以上針掛りしてフラシに入れたのは二枚だけだった、夜ビールを飲みすぎ翌日釣りにならなかつた。

最近の釣りで思い出深いのは、一碧湖で六月のムシムシした入梅時荻野さんとの釣行、大型の連続に膝がガクガク指に針も刺し腕が痛くなるほど釣りをしたのは珍しい。

長年へら鮒釣りを楽しむ事が出来るのも、釣友のお陰だと思ふ、仕事での少々のトラブルも自然との対話や仲間の冗談話で重い頭もスッキリ心とむ。

さて釣りに行こうダイナミックなオカメの釣りが出来るかも知れない、思いははや千代田湖へ……！！

五、 みずほへら鮎会創立 山岡延好

二十五周年へ寄せて

「思い出」

二十五周年おめでとうございます。

振り返って見れば本当に早いもので、私が草加支部に入会したのは昭和三十六年五月頃だったと記憶しているが？当時三十三才。四十二年十月草加支部より別支部として別れたみずほへら鮎会に籍を置く。

その頃の釣餌は、マッシュポテトが出回る前で甘藷をうらごしにしたり色々苦労したもので、また重い竹竿を振り回していたり、今思えば懐かしい釣りであった。

現在の釣は殆どカーボン竿になり管理釣場になってしまったからだろうか。

私も草加支部時代から、またみずほ支部になってからも何度かトーナメント選手として参加、或るいはキャプテンとして四十九年〜五十年頃か、ちよつと定かな覚えではないがまあ良い所までいった記憶がある。

植木会長が記録したものによれば、現会員は四十三名であるが、退会々員はみずほ設立時より五十九名と現在数より思いもよらぬ多数なものには非常に驚いている。

懐かしい人もいるがだんだん記憶が薄れ、思い出せない人もかなりいる。

記録を見ていると何回も名前が出てくる人は、本当に釣りが上手なんだなーと感心してしまふ。

私なんか釣れぬ人として記録には、釣りが出来なくなるまで掲載されないだろうと思います。

私はみずほ設立時より役員として長く務めさせていただく間に、何のお役にも立てずに過ごして来たがそろそろ若い人達にバトンタッチして、みずほ支部を帷子理事長と共に盛り立て、頂きたいと思えます。

そして釣友達と何時までも楽しい釣りが出来ればと思います。何か書いてくれと云われても書き物は苦手なので、素晴らしい記事などが書けなくても悪しからず。

当会は平均年齢が高いが、今まで一人の物故者も無くそういう点では幸せな会だなーと思う。

これからも健康に注意して、会員皆が一致協力してみずほ支部を発展させて行きましよう

“二十五周年バンザイ”

現在私の趣味はへら釣りのみで、釣行が終わると次の休日が待ちどうしく思われます。

こんな私にも釣りを忘れた時期があります、それは朝起きるのが非常に辛くてとても釣りどころではありません、ちようど胃の調子が悪くなったのがその頃でした。

みずほ発足当時は、そこそこ例会等に出席出来たのですが、昭和四十五、六年から五年間ほど例会を欠席する様になりました。

当時どんな事をして休日を過ごしたのか、いま思い出す事が出来ませんが、おそらく仕事などのもやもやが頭から離れなかったと思われるます。

昭和五十一年に長男（生後八ヶ月）を事故で亡くし全てのことへ落ちしていた時、帷子支部長、宇田川学の両氏がお線香を上げに参られて、こんな時は釣りでもして気を紛らわせなさいと励まされ、それから少し経ってからまた釣りを再開し現在に至りました。

休日に多数の釣友と過ごしていると、確かに私生活や仕事の諸々の悩みなどから一時的ではあるがストレスから解放され、それが蓄積されることなく気持ち楽になりました。

先日は長男の十七回忌を土曜日（日曜は例会）に済ませました。

へら釣りを第一に考える親を持って、故人に対して内心申し訳なく思っています。

釣りを忘れたままでいたら、今頃休日はどう過ごしているのかと考える事があります。

最近釣れなくてストレスを感じるが、ストレスの種類が違うのか終わって一杯飲めると発散してしまう様です。

体の許す限り（年寄りくさい事を言っすみません）何時までも釣り続けようと考えています、それが自分の健康維持の秘訣ではないかと思えます。

みずほクラブ支部の釣友の皆様のご協力を御願ひする次第です。

その1 「清流にへらが住む」

今から三十数年前の、秋冷の清々しい横根根大曲のことであった、初代会長の山田先生を中心に三、四名で長竿を振り出した。

やがて一面の朝靄が消え始め、人々の一日の生活が始まる頃となった、二、三枚の良型を上げふと対岸を見ると一軒の農家から一人の主婦が出て来て、手にした釜の中の米を横利根の水でといで家に入っていた。それまでなら横利根の水は奇麗なんだなあ……で済んでしまうのだ少し間を置いてセーラー服の楚々とした女子高生と思いき少女が歯を磨きながら出て来て、川の水で口を濯ぎ顔を洗って家の中に入った。

この光景をやゝ呆気に取られて見ていた、私は水郷の良さ自然さに改めて触れたような気がした、現在の汚染された河川からは考えられない一駒であった。

その2 「昔の浄水器」

時はその1と同じ頃、新利根川のとある（場所ははっきり覚えてない）橋の近くで陸っぱりでへらを狙っていた。（当時は殆ど陸っぱりであった）

暑い夏の日で、あまりの暑さに少し休憩しようと言うことで、仲間の二、三人と橋のたもと駄菓子屋で、太陽の直射を避けて休ませてもらった。

その頃には持って来た水筒も空になり喉がカラカラなので、駄菓子屋の主人に「親父さん水を一杯頂けませんか」といって頼んだ。

親父さんは「あゝいいよ……ちよつと待つてな」といって、

大き馬穴を持って家の前にあつた舟に乗りこんだ。何をするのかと見ていると、親父さんはゆつくりと舟を漕ぎ

川の中央辺りまで行き、持参のバケツに水をタップリ入れて引き返してきた。

軒下に置いてある四斗樽に馬穴の水をあけた、樽はいわゆる川の水を爐過して飲料水にする爐過装置で、中を覗くと砂が一杯詰まっていた。

その下は恐らく木炭等だったろう、樽の底近くの穴から出て来た水をコップにとつて「さあ：どうぞ」と出された。

申し訳なかったが、そう云う習慣の無かった私にはどうしても飲めなく、親父さんが家の中に入ったのを見てそっと捨てた、新利根川の水はそれ程奇麗だったのだ。

その3 「私のへら鮎釣事始め」

三十五〜六年前頃、野田郊外の芽吹水郷で大きな鮎が釣れていると聞き、幼い頃から釣が好きだった私は急ぎ十五尺（十二尺にもつかえる）の竿を一本買い求めて出掛けた。

その時までへら鮎釣を知らなかったが、誰からともなく或る程度の知識を得ると共に「サツマイモ」の練り餌で釣ることを知った。

芽吹水郷の中に「えびすやの池」という小沼があることを聞き、夏の暑い日一人で自転車を出掛けた。

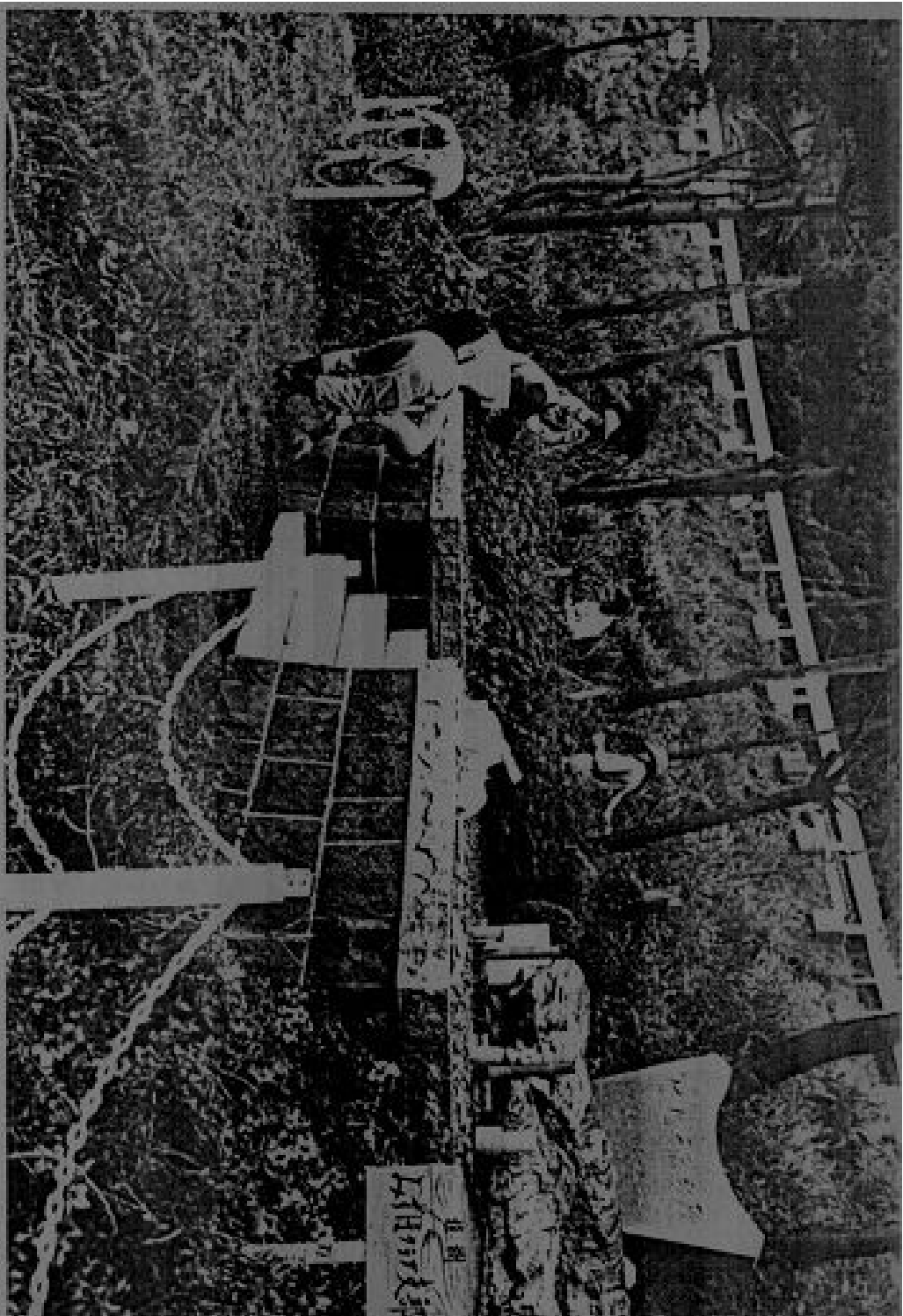
二〜三日通う中（夏休み中であつた）共ずらしの浮子が、徐々に上がつて来て横に寝てしまったので合わせると、八寸位の奇麗なへらが釣れて来た、これがへら鮎の第一号であつた。

ふと見ると十メートル位離れた所で二人の釣人が長竿で二尺位の浮子下で、交互にへらを釣り上げていではないか、おかしいなこの沼はそんな浅い処は無はずなのに…？

と疑問に思ったが振り込みといい、合わせといい、取り込みまで実に見事で自分の釣りを忘れて、暫くは呆気に取られて見惚れていた。

今にして思えばへら界の先駆者である、現植木会長か草加の山崎先生か田村氏の中のお二人ではなかつたらうか、確認せず今日にいたっている。

その後この「えびすやの池」をホームグラウンドとして、この魔魚の魅力にとりつかれ今日に至っている。



はね浮子之陣を演習するみずほクラブの会員

三、みずほクラブ年表

- 一、二十五年の歴史
- 二、大会委員長一覧
- 三、春季秋季大会優勝者
- 四、大型賞記録
- 五、二十五年間の月例会及び年間ベストテナー一覧
- 六、各年総合成績表
- 七、会員の移り変わり
- 八、月例会皆勤度数一覧

みずほクラブへら鮎会年表

昭和二十五年	<p>日本へら鮎研究会創立 五月十六日新橋烏森神社にて発会式 会長 後藤福次郎、副会長 宗村純、餌取章友 発会参集者 土肥、関沢、小林（隆）、宗村、戸田、渡辺、植木、平井、山田、増田（逸）、鬼沢、三村、堀切、竹野、岡本、西谷</p>
昭和二十六年	<p>日本へら研は支部制を取り入れ十三支部で発足、草加支部も参加 日研トーナメント第一回が開始、浅草、東横、の両支部が優勝、草加支部は都合により不参加 五月十三日 甲府丸山貯水池（現千代田湖）で日研主催の大会開催</p>
昭和二十八年	<p>名古屋佐屋川に於いて日本へら研、浪花釣友会、中部釣魚連盟の対抗戦が開かれ、叶、米地、小林、青山、木村、竹野、渡辺、と共に植木が参加、善戦して優勝を納める。</p>
昭和二十九年	<p>会長望月正行、副会長 米地南嶺、小林健二郎、竹野紫舟が就任 与田浦、精進湖、手賀六軒川、水堰橋、平山エコ、多田島江湖、横利根川大曲、観音前が大人気。 信州松本の松原湖に遠征</p>
昭和三十年	<p>会長米地南嶺、副会長小林健二郎、植木義夫、竹野紫舟が就任 この年日本へら研の会則を改訂、競技規定が制定され、現在の会則の基本となる。 日本へら研本部全賞状は植木が総べて手書きで行う。以後昭和五十七年まで実施、その枚数約五万枚。</p>
昭和三十一年	<p>会長植木義夫、副会長小林健二郎、山口幸司郎、長岡秀夫、黒沢謙吉、木村国男が就任 この年より会長の任期は二年となる。土肥伸、叶九隻、米地、山口、小林、渡辺等幹部松原湖に釣行、土肥、叶の両顧問の大釣り。精進湖で鈴木魚心杯大会開催。</p>
昭和三十二年	<p>この年七年勤続白バツジ制度、当会の植木初受賞 大阪浪花釣友会と大阪芦原池で懇親釣会 銀座支部の増田逸魚氏考案の釣り靴、竿ケース発表、大好評、現在のものの原型。</p>
昭和三十三年	<p>この年より会長制を廃止し理事長制となる。 新理事長に米地南嶺就任、機構改革の結果、企画、渉外、運営、研究、文書、経理、審判、道德、の各部誕生、支部對抗（団体トーナメント）は十人制となる。国鉄はへら鮎釣専用の「銀鱗号」を佐原及び精進湖に運行する。</p>

昭和三十四年	<p>四月五日、土肥伸先生我孫子市湖北台の自宅で逝去、四月十二日日本へら研葬。</p> <p>専用バス利用のデリースポーツ社主催の精進湖大会後援</p> <p>東武鉄道、専用列車運転の五十里湖大会後援</p> <p>土肥顧問碑を精進湖レークホテル前に建立、これより精進湖々水開き大会を開催。</p>
昭和三十五年	<p>小林健二郎理事長に就任</p> <p>この年より会員名簿が謄写版より本格的な活版刷となる。</p> <p>日本へら研専用の「坊主の池」(森戸所在)を確保。但し数年後廃止。</p> <p>団体トーナメント戦要項、競技規則改めて制定。</p>
昭和三十六年	<p>精進湖々水開大会(先輩法要釣り大会)定着</p> <p>この年会員数が待望の1000名を超え1008名。</p> <p>横利根船宿業者と日研幹部で出船時間、水棹の長さ、釣り場の清掃、密漁者の取締り等を協議、支部へ徹底</p> <p>白バッジ受賞者金子幸三郎</p>
昭和三十七年	<p>精進湖畔レークホテル前に「はねうきの碑、先輩この地を愛せり」の碑建つ。</p> <p>尺貫法改正、今までの貫、尺が廃止、釣果もセンチメートル、キログラムとメートル法を採用、大いに戸惑う。</p>
昭和三十八年	<p>日本へら研創立十五周年春季、夏季、秋季大会を開催。</p> <p>この年放流部(木村国男部長)が幸手の高須賀沼畔に養魚池を設け養魚に当たる。</p> <p>十一月十七日佐原向地に五千尾放流す。</p> <p>草加支部、団体トーナメントに優勝(選手は山田、山崎、田村、加藤(感)、降田、荻野、野崎(啓)、藤見、小出、山本、) 帷子和夫(童魚) 白バッジ受賞</p>
昭和三十九年	<p>日本へら研創立十五周年記念式典を上野精養軒大ホールで開催。</p> <p>植木義夫 特別功労賞 純金バッジを受賞</p> <p>帷子和夫 功労賞 金バッジを受賞</p> <p>草加支部、団体トーナメント 準優勝</p>
昭和四十年	<p>日本へら研精進湖畔に「はねうきの碑」建立案。</p> <p>東北線、常磐線、城南各ブロック確立。</p> <p>銀山湖、黒又ダム初の釣行。</p>

昭和四十一年	<p>日本へら研理事長に山口幸司郎就任。初の地方大会開催（山口幸司郎部長）以後定着す。</p> <p>寿会発足、初代会長に戸田条雄就任。</p> <p>台風二十六号により西湖々畔の足和田根場地区に泥流災害発生。</p> <p>死者九十三名、本部より山口、植木、代表して見舞い。</p> <p>三越デパートで釣展開催、はねうきコンクール特選山本源水、写真コンクール六位に当会々員金子幸三郎入選。</p> <p>帷子和夫、審判副部長に就任。</p> <p>草加支部、団体トーナメント 六位入賞</p> <p>月刊誌「へら鮎」発刊</p>
昭和四十二年	<p>日本へら研、「はねうきの碑」除幕式（総経費七十万円）バス十五台で七百五十名参加。（四月三十日）</p> <p>日研推薦釣り堀協和会結成、水元へら鮎センター、関東へら鮎センター、川崎へら鮎センター、柏へら鮎センター</p> <p>綾瀬へら鮎センター、吉川へら鮎センター、川越フィッシングセンター、土浦フィッシングセンター、後に米沢へら鮎センター。</p> <p>草加支部、団体トーナメント 六位入賞</p> <p>この年十月草加支部より分離、みずほクラブへら鮎会（みずほクラブ支部）として発足、会員四十四名</p> <p>◎ 支部長 山田晴重</p>
昭和四十三年	<p>日本へら研理事長に植木義夫就任。</p> <p>この年東武線ブロック協議会結成、議長山田晴重、顧問植木義夫</p> <p>白バツジ受賞者 栗原勇喜、加藤威、降田秀二郎、山岡延好、四名</p> <p>支部功労者受賞 藤見義雄</p> <p>みずほクラブ、団体トーナメント 六位入賞</p>
昭和四十四年	<p>日本へら研、創立二十周年記念大会 春秋二回開催</p> <p>日本へら研後援、吉野小貝川つり公園完成、開場。</p> <p>この年七月月例会、西湖に於いて栗原勇喜四十二・五センチの大型、本部より大型現認証を受く。</p> <p>白バツジ受賞者 荻野登茂吉、小出昌司、二名</p> <p>支部功労者受賞 降田秀二郎</p>
昭和四十五年	<p>日本へら研理事長に小川魚遊就任。</p> <p>河口湖のへら鮎大量斃死、原因はキロドネラとのこと。</p> <p>西湖の「イオ」はへら鮎に非ずと確認される。</p>

昭和四十五年	昭和四十六年	昭和四十七年	昭和四十八年	昭和四十九年
<p>この年山田支部長退任、新支部長に植木義夫、相談役山田晴重 十月の月例釣会を兼ね、みずほクラブへら鮎会創立三周年記念大会を印旛新川、平戸橋一阿宗橋で開催。 大会委員長 金子幸三郎 優勝 大川原正男 二K一八〇g 準優勝 栗原勇喜 一K六五〇g 白バッジ受賞者 山本勝美 支部功労者受賞 加藤威</p>	<p>日刊ニュース発刊、月刊機関紙として登録。 親子釣大会を「ちびっ子へら鮎釣大会」と改め、日研推薦釣り堀協和会協賛で、川越、水元、関東、桃源境、川崎柏、土浦、吉川、米沢、各へら鮎センターで開催、以後年中行事として定着。 近年自動車事故多発のため東武線ブロック協議会では全員、釣り保険に加入を決定。 白バッジ受賞者 小出公厚、古川由二、小椋直義、百木良一 支部功労者受賞 栗原勇喜</p>	<p>全日本へら鮎放流協議会が発足し小林健二郎会長就任。 放流バッジ発売 山中湖、水位異状上昇し平野地区で床上浸水 月刊誌「月刊へら」創刊 みずほクラブへら鮎会 創立五周年記念釣り大会 九月 於 新利根幸田橋 加藤邦幸 個人ベストテンに九位入賞 白バッジ受賞者 なし 支部功労者受賞 山岡弘三郎</p>	<p>既に一部で発生していた「穴あき病」が野にも釣り堀にも全国的に大発生し蔓延する。治療、予防決め手なし。 このため釣り堀の閉鎖相続く。 白バッジ受賞者 相田宏、中丸明彦 支部功労者受賞 山岡延好</p>	<p>日本へら研理事長に小林健二郎、植木義夫顧問に就任。 みずほクラブ支部長に帷子和夫、同会々長に植木義夫就任。 白バッジ受賞者 なし 支部功労者受賞 荻野登茂吉</p>

昭和五十年	昭和五十一年	昭和五十二年	昭和五十三年
<p>日本へら研創立二十五周年記念式典を上野精養軒で挙（十一月九日）叶九隻、米地南嶺、鈴木魚心、山口幸司郎、渡辺蟹歩、後閑栄、（青山文夫）木村国男に感謝状。</p> <p>小林健二郎、植木義夫、戸田条雄に特別功労賞（白金バッジ）</p> <p>佐藤紫舟、山口四郎、帷子和夫、外に特別功労賞（純金バッジ）</p> <p>十一月十六日二十五周年記念釣り大会を全国六地区で挙行。</p> <p>この年みずほクラブ五十九名の最高会員数となる。</p> <p>白バッジ受賞者 大川原正男、皆川祐三、岸周司、南貢司、多田好一、染谷孝一朗</p> <p>支部功労者受賞 小出昌司</p>	<p>みずほクラブ創立十周年記念式典をレストランプラザで挙行。</p> <p>同記念大会を流源湖にて実施。</p> <p>白バッジ受賞者 飯野道雄、柴静夫</p> <p>支部功労者受賞 山本勝美</p> <p>秋季大会委員長 皆川祐三</p> <p>創立記念大会委員長 植木会長 於 ワニ川 優勝 奥野禳 一K二八〇g</p>	<p>八月六日 叶九隻顧問 三井記念病院にて逝去 八十一才 八月八日告別式</p> <p>飯野道雄 個人ベストテンに一位入賞</p> <p>白バッジ受賞者 大久保昌夫</p> <p>支部功労者受賞 小出公厚</p> <p>春季大会委員長 大川原正男 秋季大会委員長 南貢司</p>	<p>日本へら研理事長に佐藤紫舟就任</p> <p>故叶九隻顧問銅像新利根川水神に建立、除幕式</p> <p>宮城沖地震、義援金一〇二万円</p> <p>この年豊英湖へら鮒釣り開始（四月十三日）</p> <p>白バッジ受賞者 須田俊夫</p> <p>支部功労者受賞 古川由二</p> <p>春季大会委員長 多田好一</p> <p>秋季大会委員長 金子泰一</p>

昭和五十四年	昭和五十五年	昭和五十六年	昭和五十七年
<p>日本へら研会員遂に一〇・〇〇名突破 白バツジ受賞者 相田肇、小川隆次、長谷川博忠、浅井正市、堀口操 支部功労者受賞 小椋直義 春季大会委員長 堀口操 秋季大会委員長 田口宗作 植木会長古希の祝い、大島屋で行う</p>	<p>日本へら研創立三十周年記念式典を帝国ホテルで挙行（十一月十六日） 支部推薦功労者 金子幸三郎 白バツジ受賞者 田口宗作 支部功労者受賞 相田宏 春季大会委員長 荒川義之 優勝 古川由二 秋季大会委員長 岸 守 優勝 栗原勇喜</p>	<p>五月三日幸手園、五月十日早霧湖と相続いて転落死亡事故発生 日研本部より事故防止の通達あり。 西湖漁業組合四十九年の覚え書きを無視し、へら鮎釣り禁止を通告。 日研顧問 戸田条雄 逝去 行年七十二才 全日本釣り団体協議会創立十周年 白バツジ受賞者 勝又政博、荒川義之、関根征 支部功労者受賞 中丸明彦 五十六年度大会委員長 平沢二郎（本年度より大会は年一回とする） 優勝 栗原勇喜（印旛沼）</p>	<p>日本へら研理事長に中島漁仙就任 日本へら研内紛あり、記載する項なし。 みずほクラブ創立十五周年記念式典は挙行せず釣り大会のみを、流源湖にて行う。大会委員長植木会長 優勝不明 団体ベストテンに九位入賞 選手（山本勝美、平沢二郎、黒川誠、細野良明、鈴木晃、小林義夫、加藤寛、小椋彰夫 個人ベストテン 三位 平沢二郎 四位 黒川 誠 入賞 白バツジ受賞者 岸 守、平沢二郎、黒川 誠 支部功労者受賞 大川原正男</p>

昭和五十八年	<p>日研相談役 後閑 栄（青山文夫）心不全のため五月十一日逝去 行年八十一才</p> <p>〃常任顧問 小林健二郎 肝臓ガンのため八月十二日逝去 行年六十才</p> <p>団体ベストテンに七位入賞（選手不詳）</p> <p>白バッジ受賞者 なし</p> <p>支部功労受賞者 多田好一</p> <p>大会委員長 黒川 誠 優勝 平沢二郎 二K三〇〇g（八月二十六日）</p>
昭和五十九年	<p>日本へら研年会費を二・〇〇〇円より三・〇〇〇円に値上げ。</p> <p>精進湖で船付ロープを各ワンドに設置。</p> <p>白バッジ受賞者 なし</p> <p>支部功労受賞者 染谷孝一朗</p> <p>大会委員長 鈴木経治 優勝 山本勝美 三四K六〇〇g（八月二十六日）</p>
昭和六十年	<p>日本へら研創立三十五周年</p> <p>三十五周年記念として「日本のへら鮒釣り場写真集」発刊配布</p> <p>団体ベストテンに十位入賞 選手（平沢二郎、鈴木経治、間中忠之、鈴木 茂、加藤 寛、小椋彰夫、）六名</p> <p>白バッジ受賞者 鈴木経治、細野良明、岸 喜市、加藤寛</p> <p>支部功労受賞者 飯野道雄</p> <p>関根 征 十一月例会（南部手賀）に於いて大型四二・六センチ 日研本部の大型現認証を受ける。</p> <p>大会委員長 岸 喜市 優勝 平沢二郎 二三K八〇〇g（八月二十五日）</p>
昭和六十一年	<p>日研ニュース九月号で発行二〇〇号</p> <p>白バッジ受賞者 鈴木 晃</p> <p>支部功労受賞者 柴 静夫</p> <p>大会委員長 加藤 寛 優勝 鈴木 茂 三五K一〇〇g（八月二十四日）</p>
昭和六十二年	<p>昭和天皇 九月二二日手術のため宮内庁に御入院、十月七日御退院。</p> <p>工事のため釣り不能だった千代田湖、工事了りで釣り再開。</p> <p>団体ベストテンに三位入賞 選手（降田秀二郎、平沢二郎、鈴木経治、加藤寛、間中忠之、山田喜義、岡野幸男七名）</p> <p>白バッジ受賞者 小椋彰夫</p> <p>支部功労受賞者 須田俊夫</p> <p>みずほクラブへら鮒会創立二十周年記念式典を十月十一日、大島屋で挙行、有効団体招待のかわりに放流基金とし五〇・〇〇円を寄贈</p> <p>八月二十三日 記念釣り大会を流源湖に於いて実施。</p> <p>大会委員長 植木義夫 優勝 鈴木 茂 七一K八〇〇g</p>

昭和六十三年	平成元年	平成二年	平成三年
<p>日本へら研理事長に佐藤徳通就任、帷子和夫副理事長に就任。 本部事務局を港区新橋より江東区森下ちよう移す。 団体ベストテンに四位入賞 選手（降田秀二郎、平沢二郎、鈴木経治、黒川誠、間中忠之、山田喜義、加藤寛、岡野幸男 八名） 個人ベストテン 黒川 誠 八位入賞 大会委員長 間中忠之 優勝 山本勝美 四五K二〇〇g</p>	<p>一月七日 昭和天皇崩御、新元号を「平成」とする。 日研推薦釣り協和会を展覧的解消、新名簿を「日研協和会」として新発足。 日研顧問鈴木魚心 十月十日急性呼吸不全で逝去 行年八十一才 白バッジ受賞者 間中忠之 岡 良男 支部功労受賞者 皆川祐三（五十八年度に表彰すべきを会の手違いにより欠落、本年推薦） 大会委員長 岡 良男 優勝 山田芳憲 一九K二〇〇g</p>	<p>六月二十九日秋篠宮御成婚の儀 日本へら研創立四十周年記念式典をホテルニューオータニで挙行 支部推薦功労者として降田秀二郎 金バッジ 受賞 日研相談役 行天義人 二月二十三日 逝去 行年六十九才 白バッジ受賞者 八木橋勝美（退会） 支部功労受賞者 小川隆次 大会委員長 鈴木 茂 優勝 鈴木 茂 四九K六〇〇g</p>	<p>新天皇 御即位の大礼 日本へら研十二月最終常任理事会に於いて、次期理事長に帷子和夫を選出 みずほへら鮎会最終役員会に於いて、新支部長に山本勝美、植木会長を名誉会長に推し、承認。 団体ベストテンに一位入賞 選手（多田好一、平沢二郎、山田喜義、黒川誠、加藤寛、間中忠之、岡野幸男 七名） 白バッジ受賞者 鈴木 茂 支部功労受賞者 長谷川博忠 大会委員長 山田喜義 優勝 染谷 悟 三七K二〇〇g</p>

みずほクラブへら鮎会春季秋季大会優勝者

(昭和42年～平成3年)

春季大会						秋季大会					
年度	月	日	優勝者	釣り場	釣果	年度	月	日	優勝者	釣り場	釣果
42						42			不明	不明	不明
43			不明	不明	不明	43			不明	不明	不明
44			不明	不明	不明	44			不明	不明	不明
45	4		不明	古渡川	不明	45	10	11	大川原正男	印旛新川	2, 180
46	4		時田 芦舟	北利根川	0, 760	46	9		島根 進	新利根 幸田橋	2, 950
47	4		多田 好一	与田浦	1, 900	47	9		岩井 昌一	新利根川	0, 920
48	5	6	宇田川 学	古渡川	0, 945	48	9	16	須田 俊夫	スノヤワラ	2, 635
49	5	5	相田 宏	古渡川	1, 680	49	9	15	福田 清治	ワニ川	0, 880
50	4	29	矢萩 憲一	五十里湖	0, 260	50	9	15	福田 清治	ワニ川	1, 430
51	4	29	浅井 正市	五十里湖	0, 550	51	10	17	奥野 穰	ワニ川	1, 280
52	4	29	大川原正男	古渡川	3, 700	52	10	16	大川原正男	スノヤワラ	0, 130
53	4	23	岩井 昌一	長門川周辺	2, 430	53	10	15	小出 昌司	印旛 中央橋	3, 530
54	4	8	関根 征	与田浦	1, 310	54	10	21	栗原 勇喜	小野川新堀	2, 000
55	4	13	古川 由二	鹿島川 吐出し舟	1, 290	55	10	19	山本 勝美	古渡川	2, 820
56						56	10	18	栗原 勇喜	印旛沼滝口	0, 740
57						57	10	31		流源湖	
58						58	8	28	平沢 二郎	流源湖	23, 000
59						59	8	26	山本 勝美	流源湖	34, 600
60						60	8	25	平沢 二郎	流源湖	23, 800
61						61	8	24	鈴木 茂	流源湖	35, 100
62						62	8	23	鈴木 茂	流源湖	71, 800
63						63	8	28	山本 勝美	流源湖	45, 200
平成1						平成1	8	27	山田 芳憲	流源湖	19, 200
2						2	8	26	鈴木 茂	流源湖	49, 600
3						3	8	25	染谷 悟	流源湖	37, 200

(註) 1、昭和42年より同45年、資料不足で記載せず

2、昭和56年以降は年一回実施に改める。

大 型 記 録

年度	月	日	釣 場	氏 名	体 長Cm	年度	月	日	釣 場	氏 名	体 長Cm
4 2											
4 3						5 5	1 1	2 3	南部手賀(大塚)	関根 征	3 9. 5
4 4	7	2 0	西 湖	栗原 勇喜	◎ 4 2. 5	5 6	1 2	6	北部手賀(瀧)	小出 公厚	3 8. 0
4 5	1 1		横利根(中島)	小出 晶司	3 2. 6	5 7	1 1	2 1	南部手賀(大塚)	黒川 誠	4 0. 5
4 6	3		新利根川	柴 静夫	3 4. 0	5 8	1 1	2 0	南部手賀(大塚)	柴 静夫	4 0. 2
4 7	1 1		印旛新川	大久保昌夫	3 2. 15	5 9	1 1	1 8	南部手賀(大塚)	間中 忠之	4 1. 2
4 8	8	1 5	田 貫 湖	大川原正男	3 7. 0	6 0	1 1	1 7	南部手賀(大塚)	関根 征	◎ 4 2. 6
4 9	1 1	1 0	横利根川	小川 隆次	3 5. 6	6 1	4	2 9	砂 沼	平沢 二郎	4 0. 5
5 0	1 0		印旛沼(瀧口)	加藤 威	3 6. 4	6 2	6	1 4	千代田湖	荻野登茂吉	4 0. 0
5 1	5	2 3	喜多方川前	岸 守	3 5. 5	6 3	1 2	4	南部手賀(大塚)	黒川 誠	4 1. 5
5 2	6	1 9	古 渡 川	須田 俊夫	3 3. 8	平成 元年	1 2	3	南部手賀(大塚)	加藤 寛	4 1. 5
5 3	5	7	喜多方川前	多田 好一	3 4. 8	2	1 1	1 8	北部手賀(瀧)	長谷川博忠	4 1. 7
5 4	1 0	2 1	古 渡 川	帷子 和夫	3 5. 1	3	1 1	1 7	北部手賀(瀧)	須田 俊夫 関根 征	4 2. 0 4 2. 0

(註) ◎印は日研本部大型現認証受賞
S 4 3年不詳
平成3年2名同長

昭和45年度 月例会優勝者				昭和45年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月				1	小出 昌司	10,098	
2月				2	宇田川 学	8,587	
3月				3	荻野登茂吉	7,911	
4月				4	栗原 勇喜	7,866	
5月				5	飯野 道雄	7,837	
6月	小出 昌司	1,250	精進湖	6	大川原正男	7,090	
7月	小出 昌司	2,300	西湖	7	小出 公厚	6,767	
8月	荻野登茂吉	1,300	湖北古利根	8	古川 由二	6,261	
9月	飯野 道雄	0,940	佐原一帯	9	大久保昌夫	6,017	
10月	大川原正男	2,180	印旛新川	10	福田 至嗣	5,703	
11月	小出 昌司	0,550	横利根 中島屋廻	次点	山岡 延好	5,586	
12月	宇田川 学	1,000	" "	年間最大型			

注 年間総合順位は取得点数による

昭和46年度 月例会優勝者				昭和46年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	島根 進	13,700	関東へら鮒センター	1	宇田川 学	9,574	20,140
2月	飯野 道雄	12,000	吉川へら鮒センター	2	飯野 道雄	8,610	26,450
3月	柴 静夫	1,300	新利根川	3	大川原正男	8,379	12,250
4月	時田 芦船	0,760	北利根川	4	小出 昌司	8,131	17,570
5月	宇田川 学	3,360	印旛新川	5	島根 進	7,986	26,570
6月	矢萩 恵一	2,070	田貫湖	6	矢萩 恵一	7,817	17,340
7月	加藤 威	2,190	ワニ川	7	荻野登茂吉	7,680	13,820
8月	栗原 勇喜	1,360	横利根川	8	小出 公厚	7,235	13,360
9月	島根 進	2,950	新利根川 韮田廻	9	加藤 威	7,152	16,340
10月	荻野登茂吉	2,730	印旛新川	10	柴 静夫	7,113	10,930
11月	大川原正男	0,420	新八間川	次点	加藤邦幸	7,002	11,820
12月	小出 昌司	0,210	横利根川	年間最大型 柴 静夫 34.0Cm 3月			

昭和47年度 月例会優勝者				昭和47年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	小出 公厚	1,045	新利根川	1	岩井 昌一	8,747	8,269
2月	強風のため中止		南部手賀(ヒト)	2	飯野 道雄	8,491	7,107
3月	岩井 昌一	0,800	佐原一帯	3	荻野登茂吉	8,489	5,680
4月	多田 好一	1,900	与田浦	4	小出 公厚	7,776	7,155
5月	岩井 昌一	3,430	印旛新川	5	大久保昌夫	7,696	5,950
6月	山本 勝美	0,840	北利根川	6	加藤 威	7,563	7,430
7月	小出 昌司	1,650	新利根川	7	古川 由二	7,492	5,920
8月	飯野 道雄	1,260	鹿島川	8	須田 俊夫	7,478	5,768
9月	岩井 昌一	0,920	新利根川	9	矢萩 恵一	7,353	4,531
10月	三井 輝恭	2,275	印旛新川	10	宇田川 学	7,180	4,595
11月	加藤 威	2,930	鹿島川	次点	福田 清治	7,144	4,630
12月	植木 義夫	1,550	佐原一帯	年間最大型 大久保昌夫 32.15Cm 10月			

昭和48年度 月例会優勝者				昭和48年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	須田 俊夫	5,150	南部手賀	1	飯野 道雄	10,128	13,675
2月	矢萩 憲一	2,500	東松山センター	2	岩井 昌一	9,365	11,335
3月	三井 輝恭	0,800	鹿島川 (隠釣)	3	宇田川 学	8,710	11,175
4月	古川 由二	2,070	五十里湖	4	荻野登茂吉	8,359	11,030
5月	宇田川 学	0,900	古渡川	5	須田 俊夫	8,075	16,185
6月	小川 隆次	0,730	ワニ川	6	栗原 勇喜	7,963	7,510
7月	岩井 昌一	1,790	三島湖	7	小川 隆次	7,779	9,390
8月	長谷川博忠	4,840	田貫湖	8	大川原正男	7,356	12,155
9月	須田 俊夫	2,635	スノヤワラ	9	古川 由二	7,253	10,685
10月	荻野登茂吉	2,170	新利根川	10	長谷川博忠	7,129	9,125
11月	荻野登茂吉	1,500	鹿島川 吐き出し周辺	次点	小出 公厚	7,006	8,695
12月	小川 隆次	2,440	横利根川	年間最大型 大川原正男 37.0Cm 8月			

昭和49年度 月例会優勝者				昭和49年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	宇田川 学	0,260	中央水路	1	三井 輝恭	9,086	10,660
2月	全員釣果なし	0	新利根川	2	飯野 道雄	8,247	9,870
3月	尾崎 義之	0,490	鹿島川 (隠釣)	3	植木 義夫	7,558	9,180
4月	古川 由二	10,000	五十里湖	4	宇田川 学	7,538	10,180
5月	相田 宏	1,680	古渡川	5	堀口 操	7,426	10,860
6月	飯野 道雄	0,910	西ノ湖	6	長谷川博忠	7,123	5,830
7月	宇田川 学	3,100	喜多方川前	7	小出 昌司	6,904	4,840
8月	飯野 道雄	2,620	小野川新堀	8	岩井 昌一	6,741	5,610
9月	福田 清治	0,880	ワニ川	9	古川 由二	6,666	13,860
10月	山本 勝美	3,260	鹿島川 吐き出し周辺	10	加藤 威	6,527	6,665
11月	飯野 道雄	1,160	横利根川	次点	大久保昌夫	6,315	6,150
12月	金子 恭一	0,490	佐原一帯	年間最大型 荻野登茂吉 35.3Cm 5月			

昭和50年度 月例会優勝者				昭和50年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	岩井 昌一	1,910	印旛中央水路	1	岩井 昌一	9,669	13,485
2月	小出 昌司	1,140	将監川	2	関根 征	8,175	5,940
3月	岩井 昌一	4,250	鹿島川 (隠釣)	3	飯野 道雄	7,709	5,085
4月	矢萩 憲一	0,260	五十里湖	4	三井 輝恭	7,683	7,425
5月	岩井 昌一	2,830	喜多方川前	5	小出 昌司	7,519	5,190
6月	小川 隆次	1,020	小野川新堀	6	須田 俊夫	7,171	3,510
7月	小石 潔	1,835	田貫湖	7	平沢 二郎	7,168	6,275
8月	岩井 昌一	1,240	牛久沼	8	小川 隆次	7,133	4,330
9月	福田 清治	1,430	ワニ川	9	沖 一	7,100	4,200
10月	山岡 清治	1,550	鹿島川 吐き出し周辺	10	福田 清治	6,968	6,280
11月	荻野登茂吉	0,530	新利根川	次点	荻野登茂吉	6,908	4,275
12月	関根 征	0,970	横利根川	年間最大型 加藤威 36.4Cm 10月			

昭和51年度 月例会優勝者				昭和51年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	小出 昌司	0, 370	印旛沼周辺	1	岩井 昌一	8, 959	6, 185
2月	古川 由二	1, 490	安喰 周辺	2	荻野登茂吉	8, 568	5, 865
3月	荻野登茂吉	1, 580	佐原 一帯	3	平沢 二郎	7, 560	6, 195
4月	浅井 正市	0, 550	五十里湖	4	古川 由二	7, 379	6, 790
5月	勝又 政博	2, 360	喜多方川前	5	勝又 政博	7, 316	7, 960
6月	岩井 昌一	1, 250	小野川新堀	6	植木 義夫	7, 311	5, 110
7月	大川原正男	0, 380	田 貫 湖	7	飯野 道雄	7, 316	4, 160
8月	平沢 二郎	0, 670	精 進 湖	8	関根 征	7, 082	4, 815
9月	大川原正男	4, 050	鹿島川 吐き出し周辺	9	大川原正男	6, 536	6, 560
10月	奥野 穰	1, 280	ワニ川	10	降田秀二郎	6, 513	3, 725
11月	勝又 政博	1, 320	印旛沼周辺	次点	宇田川 学	6, 170	3, 395
12月	須田 俊夫	1, 650	牛久沼 周辺	年間最大型	岸周史	35.5Cm	5月

昭和52年度 月例会優勝者				昭和52年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	平沢 二郎	10, 000	関東へん縮センター古河池	1	勝又 政博	8, 889	11, 090
2月	黒川 誠	0, 700	安喰 周辺	2	黒川 誠	8, 840	12, 200
3月	山元 俊弘	0, 720	佐原 一帯	3	岩井 昌一	8, 636	11, 350
4月	大川原正男	3, 700	古 渡 川	4	須田 俊夫	7, 503	9, 230
5月	植木 義夫	1, 400	喜多方川前	5	荻野登茂吉	7, 469	7, 885
6月	長谷川博忠	2, 220	鹿島川 吐き出し周辺	6	三井 輝恭	7, 349	7, 090
7月	小出 昌司	1, 140	松 の 湖	7	小出 昌司	7, 271	14, 685
8月	飯野 道雄	1, 080	小野川新堀	8	長谷川博忠	6, 490	8, 200
9月	早川 信夫	2, 240	鹿島川 吐き出し周辺	9	関根 征	6, 542	5, 300
10月	大川原正男	0, 130	スノヤワラ	10	平沢 二郎	6, 383	12, 830
11月	岩井 昌一	2, 100	安喰 周辺	次点	植木 義夫	6, 295	8, 745
12月	須田 俊夫	1, 720	佐原 一帯	年間最大型	須田俊夫	33.8Cm	6月

昭和53年度 月例会優勝者				昭和53年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	早川 信夫	0, 500	東 矢 田川	1	平沢 二郎	9, 015	15, 345
2月	岩井 昌一	1, 200	将 監 川	2	山本 勝美	8, 501	9, 010
3月	岩井 昌一	2, 450	横 利 根川	3	荻野登茂吉	8, 117	6, 470
4月	岩井 昌一	2, 430	長門川一帯	4	岩井 昌一	7, 867	8, 070
5月	飯野 道雄	5, 800	喜多方川前	5	関根 征	7, 233	4, 870
6月	堀口 操	1, 110	鹿島川 吐き出し周辺	6	黒川 誠	6, 485	8, 450
7月	平沢 二郎	7, 590	円 良 田 湖	7	長谷川博忠	6, 440	4, 800
8月	栗原 勇喜	0, 540	小野川新堀	8	勝又 政博	6, 356	5, 585
9月	小川 隆次	2, 260	鹿島川 吐き出し周辺	9	植木 義夫	6, 346	3, 660
10月	小出 昌司	3, 530	印旛中央水路	10	飯野 道雄	6, 327	12, 870
11月	黒川 誠	1, 830	新利根川幸田橋周辺	次点	小川 隆次	6, 097	5, 770
12月	古川 由二	0, 900	牛久沼新地	年間最大型	多田好一	34.8Cm	5月

昭和54年度 月例会優勝者				昭和54年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	栗原 勇喜	5,000	印旛沼周辺	1	関根 征	9,675	13,300
2月	降田秀二郎	1,560	安喰 周辺	2	山本 勝美	9,598	10,430
3月	加藤 寛	0,710	横利根大曲	3	小出 昌司	8,789	13,010
4月	関根 征	1,310	与田 浦	4	鈴木 経治	8,606	11,135
5月	古川 由二	1,520	印旛沼西部	5	平沢 二郎	8,516	13,440
6月	鈴木 経治	2,300	円良田湖	6	古川 由二	8,355	8,910
7月	小川 隆次	3,580	一碧湖	7	小川 隆次	8,199	10,820
8月	岸 喜市	4,550	三名湖	8	荻野登茂吉	7,995	9,910
9月	小出 昌司	4,910	印旛沼中央水路	9	長谷川博忠	7,858	7,820
10月	奥野 穰	2,820	古渡川	10	須田 俊夫	7,143	10,350
11月	黒川 誠	0,570	佐原一帯	次点	山岡 延好	6,892	5,880
12月	関根 征	1,240	牛久沼 周辺	年間最大型	帷子 和夫	35.1Cm	10月

昭和55年度 月例会優勝者				昭和55年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	鈴木 経治	4,900	弁天釣り堀	1	荻野登茂吉	9,469	16,980
2月	平沢 二郎	0,750	安喰 周辺	2	鈴木 経治	8,899	19,310
3月	小川 隆次	0,600	野田 奈川	3	平沢 二郎	8,653	14,450
4月	古川 由二	1,290	鹿島川 吐き出し周辺	4	加藤 寛	8,550	11,300
5月	黒川 誠	4,620	西 湖	5	山本 勝美	8,203	14,190
6月	鈴木 経治	7,500	円良田湖	6	関根 征	8,072	15,120
7月	平沢 二郎	5,300	一碧湖	7	黒川 誠	7,757	15,450
8月	岸 喜市	3,850	三名湖	8	大川原正男	7,538	8,940
9月	加藤 寛	0,990	印旛沼中央水路	9	植木 義夫	7,363	10,070
10月	栗原 勇喜	2,000	古渡川	10	皆川 祐三	7,245	9,370
11月	田口 宗作	2,550	南部手賀(大塚)	次点	小川 隆次	7,211	9,630
12月	鈴木 経治	3,000	牛久沼 周辺	年間最大型	関根 征	39.5Cm	11月

昭和56年度 月例会優勝者				昭和56年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	平沢 二郎	4,100	東川口センター	1	山本 勝美	9,690	20,550
2月	小林 義夫	5,900	七井戸のセキ	2	関根 征	9,187	10,820
3月	降田秀二郎	1,510	佐原一帯	3	須田 俊夫	8,751	9,260
4月	黒川 誠	3,300	神流湖	4	植木 義夫	8,667	9,370
5月	荻野登茂吉	1,060	西 湖	5	鈴木 経治	8,480	9,500
6月	降田秀二郎	7,820	円良田湖	6	古川 由二	8,294	9,090
7月	黒川 誠	4,000	一碧湖	7	降田秀二郎	8,291	15,910
8月	山本 勝美	5,600	三名湖	8	鈴木 晃	8,290	10,110
9月	鈴木 経治	1,500	印旛沼中央水路	9	加藤 威	8,275	11,900
10月	栗原 勇喜	0,740	古渡川	10	平沢 二郎	7,921	11,060
11月	荻野登茂吉	5,820	南部手賀(大塚)	次点	小出 公厚	6,936	7,110
12月	山本 勝美	5,500	北部手賀(七ヶ)	年間最大型	小出 公厚	38.0Cm	11月

昭和57年度 月例会優勝者				昭和57年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	黒川 誠	8,410	吉次沼	1	黒川 誠	10,909	21,035
2月	荻野登茂吉	6,300	弁天釣り堀	2	山本 勝美	10,148	22,580
3月	鈴木 晃	1,440	佐原 一帯	3	古川 由二	9,668	15,330
4月	小林 義夫	0,600	神流湖	4	関根 征	8,090	14,600
5月	山本 勝美	1,900	三島湖	5	鈴木 晃	7,869	10,390
6月	山本 勝美	5,950	西湖	6	荻野登茂吉	7,575	12,900
7月	山本 勝美	4,300	三名湖	7	加藤 寛	7,535	11,145
8月	台風のため中止		千代田湖	8	小川 隆次	7,275	10,550
9月	須田 俊夫	2,080	一碧湖	9	須田 俊夫	7,082	10,070
10月	山本 勝美	0,950	印旛沼中央水路	10	鈴木 経治	6,772	7,868
11月	山本 勝美	2,000	南部手賀(大塚)	次点	山岡 延好	6,483	8,080
12月	黒川 誠	2,400	北部手賀(ヒト)	年間最大型	黒川 誠	40.6Cm	11月

昭和58年度 月例会優勝者				昭和58年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	小林 義夫	4,400	吉次沼	1	山本 勝美	13,441	47,805
2月	須田 俊夫	12,200	東川口セナー	2	平沢 二郎	13,046	51,410
3月	山本 勝美	1,065	佐原 一帯	3	間中 忠之	12,159	40,990
4月	小川 隆次	5,200	神流湖	4	鈴木 経治	11,236	36,555
5月	平沢 二郎	6,550	三島湖	5	植木 義夫	10,934	30,590
6月	間中 忠之	6,420	千代田湖	6	須田 俊夫	10,882	33,215
7月	間中 忠之	5,950	三名湖	7	加藤 寛	10,639	28,285
8月	平沢 二郎	23,000	流源湖	8	小川 隆次	10,329	31,990
9月	山本 勝美	4,500	一碧湖	9	荻野登茂吉	10,300	37,200
10月	関根 征	1,910	佐原 一帯	10	古川 由二	9,670	25,895
11月	荻野登茂吉	6,400	南部手賀(大塚)	次点	鈴木 晃	9,255	25,300
12月	強風のため出船出来ず参加点のみ		北部手賀(ヒト)	年間最大型	柴静夫	40.2Cm	11月

昭和59年度 月例会優勝者				昭和59年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	大雪のため流会		吉次沼	1	平沢 二郎	15,742	63,020
2月	多田 好一	8,600	吉次沼	2	間中 忠之	12,784	41,040
3月	鈴木 経治	0,240	佐原 一帯	3	須田 俊夫	11,814	44,140
4月	平沢 二郎	2,580	神流湖	4	飯野 道雄	11,530	43,100
5月	鈴木 経治	3,210	三島湖	5	山本 勝美	11,237	51,170
6月	山本 勝美	7,420	千代田湖	6	加藤 威	11,037	39,170
7月	須田 俊夫	10,100	三名湖	7	鈴木 経治	10,869	34,890
8月	山本 勝美	34,600	流源湖	8	荻野登茂吉	10,055	31,550
9月	小出 公厚	3,500	一碧湖	9	降田秀二郎	9,769	30,290
10月	間中 忠之	3,220	佐原 一帯	10	植木 義夫	9,503	32,430
11月	間中 忠之	1,350	南部手賀(大塚)	次点	鈴木 茂	9,439	38,590
12月	荻野登茂吉	2,500	北部手賀(ヒト)	年間最大型	間中忠之	41.2Cm	11月

昭和60年度 月例会優勝者				昭和60年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	鈴木 経治	9, 100	吉次沼	1	山本 勝美	13, 654	53, 340
2月	鈴木 茂	8, 900	松原センター	2	平沢 二郎	13, 436	53, 560
3月	岸 守	1, 640	中央道珍両水路	3	荻野登茂吉	13, 346	49, 460
4月	降田秀二郎	0, 750	神流湖	4	飯野 道雄	13, 165	44, 650
5月	荻野登茂吉	10, 100	三島湖	5	関根 征	12, 022	39, 620
6月	飯野 道雄	8, 320	西湖	6	鈴木 経治	11, 449	43, 290
7月	山本 勝美	11, 100	三名湖	7	鈴木 茂	11, 380	53, 600
8月	平沢 二郎	23, 800	流源湖	8	須田 俊夫	10, 132	25, 320
9月	山本 勝美	5, 200	間瀬湖	9	岸 守	10, 024	34, 040
10月	小川隆次 鯉野謙	0, 440	佐原一帯	10	小川 隆次	9, 836	28, 960
11月	間中 忠之	3, 650	南部手賀(大塚)	次点	降田秀二郎	9, 692	23, 720
12月	黒川 誠	3, 800	北部手賀(ヒト)	年間最大型	関根 征	42.6 Cm	11月

(註) 佐原一帯の例会では2名の同量あり

昭和61年度 月例会優勝者				昭和61年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	荻野登茂吉	10, 800	吉次沼	1	平沢 二郎	15, 466	72, 460
2月	鈴木 茂	10, 400	松原センター	2	黒川 誠	15, 218	74, 180
3月	黒川 誠	0, 580	佐原一帯	3	荻野登茂吉	14, 010	63, 790
4月	平沢 二郎	7, 210	砂沼	4	小川 隆次	12, 646	53, 660
5月	植木 義夫	3, 000	三島湖	5	加藤 威	12, 083	46, 430
6月	平沢 二郎	13, 100	千代田湖	6	山本 勝美	12, 066	55, 060
7月	平沢 二郎	16, 400	三名湖	7	降田秀二郎	11, 108	41, 480
8月	鈴木 茂	35, 100	流源湖	8	飯野 道雄	11, 090	39, 900
9月	荻野登茂吉	1, 100	亀山湖	9	須田 俊夫	11, 055	37, 150
10月	降田秀二郎	1, 680	佐原一帯	10	植木 義夫	10, 930	49, 900
11月	鈴木 経治	4, 300	南部手賀(大塚)	次点	鈴木 経治	10, 522	47, 420
12月	平沢 二郎	6, 550	北部手賀(沼圃)	年間最大型	平沢 二郎	40.5 Cm	4月

昭和62年度 月例会優勝者				昭和62年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	山本 勝美	12, 200	吉次沼	1	黒川 誠	18, 395	100, 950
2月	鈴木 晃	6, 150	東川口センター	2	山本 勝美	17, 493	77, 730
3月	加藤 威	8, 900	豊英湖	3	鈴木 茂	16, 380	101, 800
4月	間中 忠之	3, 050	砂沼	4	飯野 道雄	14, 815	73, 150
5月	山本 勝美	11, 300	三島湖	5	間中 忠之	13, 200	54, 800
6月	平沢 二郎	8, 450	千代田湖	6	岸 守	13, 085	61, 450
7月	黒川 誠	12, 300	三名湖	7	降田秀二郎	11, 872	51, 520
8月	鈴木 茂	71, 800	流源湖	8	平沢 二郎	11, 730	44, 200
9月	平沢 二郎	5, 050	千代田湖	9	鈴木 経治	11, 566	43, 860
10月	山本 勝美	1, 030	佐原一帯	10	堀口 操	11, 359	41, 990
11月	岸 守	2, 600	南部手賀(大塚)	次点	加藤 寛	11, 290	46, 500
12月	黒川 誠	3, 300	北部手賀(沼圃)	年間最大型	荻野登茂吉	40.0 Cm	6月

昭和63年度 月例会優勝者				昭和63年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果Kg	釣場	順位	氏名	点数	総釣果Kg
1月	八木橋勝美	29,000	吉次沼	1	山本勝美	19,411	110,710
2月	黒川誠	12,100	東川口センター	2	黒川誠	18,835	113,750
3月	荻野登茂吉	9,700	豊英湖	3	平沢二郎	16,792	93,120
4月	黒川誠	13,300	砂沼	4	鈴木茂	16,425	99,050
5月	岸守	7,300	三島湖	5	荻野登茂吉	16,118	85,580
6月	平沢二郎	8,750	千代田湖	6	鈴木経治	15,681	88,410
7月	鈴木茂	25,600	三名湖	7	岸守	14,403	70,630
8月	山本勝美	45,200	流源湖	8	加藤寛	14,305	73,250
9月	台風18号来襲により中止		早霧湖	9	関根征	13,730	77,100
10月	山田喜義	3,650	佐原一帯	10	植木義夫	13,380	69,400
11月	岸守	2,300	南部手賀(大塚)	次点	間中忠之	12,726	56,860
12月	黒川誠	10,400	北部手賀(沼欄)	年間最大型	黒川誠	41.5Cm	12月

平成元年度 月例会優勝者				平成元年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果	釣場	順位	氏名	点数	総釣果
1月	植木義夫	12,200	吉次沼	1	間中忠之	16,322	67,620
2月	間中忠之	7,400	一光園	2	山本勝美	15,286	71,260
3月	黒川誠	8,800	豊英湖	3	荻野登茂吉	14,755	59,550
4月	鈴木茂	19,300	砂沼	4	平沢二郎	13,880	65,200
5月	平沢二郎	6,400	三島湖	5	山田喜義	12,970	55,900
6月	山本勝美	10,700	千代田湖	6	鈴木経治	12,670	46,300
7月	山本勝美	14,800	三名湖	7	鈴木茂	12,515	60,150
8月	山田芳憲	19,200	流源湖	8	皆川祐三	12,119	48,190
9月	鈴木経治	8,450	豊英湖	9	多田好一	12,004	42,040
10月	鈴木経治	1,800	佐原一帯	10	岸守	12,002	42,620
11月	間中忠之	5,150	南部手賀(大塚)	次点	黒川誠	11,480	48,600
12月	間中忠之	2,900	北部手賀(沼欄)	年間最大型	加藤寛	41.5Cm	12月

平成2年度 月例会優勝者				平成2年度 年間ベストテン			
月別	氏名	釣果	釣場	順位	氏名	点数	総釣果
1月	平沢二郎	17,800	吉次沼	1	平沢二郎	19,775	109,950
2月	山田喜義	6,200	一光園	2	岸守	18,830	101,100
3月	堀口操	10,000	豊英湖	3	間中忠之	17,783	93,230
4月	間中忠之	10,500	砂沼	4	山本勝美	17,583	97,230
5月	山本勝美	9,500	三島湖	5	山田喜義	16,885	92,450
6月	岡野幸男	7,900	千代田湖	6	黒川誠	16,855	91,150
7月	平沢二郎	11,800	三名湖	7	堀口操	15,409	75,290
8月	鈴木茂	49,600	流源湖	8	多田好一	15,292	74,750
9月	岸守	5,100	三島湖	9	荻野登茂吉	15,229	72,090
10月	須賀智男	0,930	佐原一帯	10	鈴木経治	15,181	74,610
11月	植木義夫	3,000	北部手賀(沼欄)	次点	小川隆次	15,055	77,150
12月	山本勝美	19,000	八街上水湖	年間最大型	長谷川博忠	41.7Cm	11月

みずほクラブへら鮎会 創立以来の会員氏名

入会年のうち（ ）は本部登録年

現 会 員				退 会 員				
氏 名	入会年	退会年	氏 名	入会年	退会年	氏 名	入会年	退会年
植 木 義 夫	42(25)		小 椋 直 義	42(40)	平 3	松 野 三 代	4 4	4 5
金 子 幸三郎	42(29)		小 椋 彰 夫		3	小 林 貢	42(36)	4 5
帷 子 和 夫	42(31)		岸 周 史	42(50)	2	加 藤 晴 義	4 4	4 5
栗 原 勇 喜	42(36)		大久保 昌 夫		2	秋 山 邦 光	4 3	4 5
加 藤 威	42(36)		八木橋 勝 美		2	福 島 通 雄	4 3	4 5
降 田 秀二郎	42(36)		村 田 了 一		2	浜 野 秋太郎	4 3	4 4
山 岡 延 好	42(36)		中 丸 明 彦	42(41)	6 3	星 野 実	42(33)	4 4
荻 野 登茂吉	42(37)		南 貢 司	4 2	6 3	北 原 清 人	4 1	4 4
小 出 昌 司	42(38)		岸 喜 市	5 2	6 3	金 子 竹次郎	4 3	4 4
山 本 勝 美	42(38)		鈴 木 晃	5 4	6 3	大川原 隆	4 3	4 4
小 出 公 厚	42(39)		細 野 良 明	5 2	6 1	会 田 昭 平	42(38)	4 4
古 川 由 二	42(39)		三 井 輝 恭	4 6	5 9	横 川 次 郎	4 3	4 3
相 田 宏	41(41)		小 林 義 夫	5 3	5 9	会 田 尚 之	42(33)	4 3
皆 川 祐 三	4 2		金 子 泰 一	4 6	5 8	大川原 正 男	4 2	6 1
多 田 好 一	4 2		富 田 義 治	5 0	5 8	(5 9 名)		
染 谷 孝一朗	4 3		沖 一	4 3	5 6			
飯 野 道 雄	4 3		奥 野 穰	42(41)	5 5			
柴 静 夫	4 3		福 田 清 治	4 3	5 5			
須 田 俊 夫	4 6		岩 井 昌 一	4 6	5 5			
相 田 肇	4 6		小 林 利 明	4 8	5 5			
小 川 隆 次	4 6		森 川 正 直	4 8	5 5			
長谷川 博 忠	4 7		小 石 潔	4 9	5 5			
浅 井 正 市	4 7		早 川 信 夫	4 9	5 5			
堀 口 操	4 7		宇田川 学	42(41)	5 4			
田 口 宗 作	4 8		矢 萩 恵 一	4 5	5 4			
勝 又 政 博	4 8		加 藤 邦 幸	4 5	5 4			
荒 川 義 之	4 8		山 崎 重 夫	4 9	5 4			
関 根 征	4 9		神 田 勇	4 9	5 4			
岸 守	4 9		平 間 宏	4 5	5 3			
平 沢 二 郎	4 9		山 元 俊 弘	4 6	5 3			
黒 川 誠	5 0		須 永 喜 明	4 8	5 3			
鈴 木 経 治	5 2		大 沢 房 好	42(40)	5 2			
加 藤 寛	5 3		石 垣 英 作	4 3	5 2			
間 中 忠 之	5 7		藤 見 義 雄	42(35)	5 0			
岡 良 男	5 7		時 田 芹 舟	42(39)	5 0			
鈴 木 茂	5 9		島 根 進	4 2	5 0			
山 田 喜 義	6 1		山 田 晴 重	42(33)	5 0			
山 田 芳 憲	6 1		山 岡 弘 三 郎	42(36)	4 9			
岡 野 幸 男	6 2		百 木 良 一	42(39)	4 9			
須 賀 智 男	平 2		山 田 英 男	42(41)	4 8			
染 谷 悟	3		金 塚 武 二	4 2	4 7			
秦 一 生	3		高 橋 明 雄	4 6	4 7			
浅 井 清 一	4		中 村 稔 生	4 6	4 7			
(4 3 名)			鈴 木 康 弘	4 4	4 6			
			福 田 至 嗣	4 4	4 6			

昭和42年

月例釣会皆勤度数一覧表

創立以来

(昭和42年~平成三年)

現 会 員		退 会 者		月例会連続皆勤者一覧表
氏 名	回数	氏 名	回数	昭和四十二年以降)
植木 義夫	12	浅井 正市	1	山田 晴重 1 山岡 弘三郎 6 宇田川 学 6 島根 進 1 大川原 正男 4 小椋 直義 0 加藤 邦幸 1 矢萩 恵一 2 福田 清治 2 大久保 昌夫 1 金子 泰一 1 岩井 昌一 7 三井 輝恭 5 中丸 明彦 1 富田 義治 1 鈴木 晃 3 岸 周史 0 岸 喜市 0 八木橋 勝美 0 村田 了一 0 南 貢司 0 細野 良明 0 小林 義夫 0 奥野 穰 0 沖 一 0 森川 匹直 0 小林 利雄 0 早川 信夫 0 大沢 房好 0 平間 宏 0 山元 俊弘 0 須永 喜明 0 山崎 重夫 0 神田 勇 0
金子 幸三郎	3	堀口 操	5	連続年数 氏名 十七年四ヵ月 皆川 裕三 十六年八ヵ月 須田 俊夫 十六年0月 長谷川 博忠 九年二ヵ月 植木 義夫 八年八ヵ月 飯野 道雄 七年二ヵ月 岸 守 五年四ヵ月 之 五年一ヵ月 征 四年0ヵ月 小川 隆次 三年四ヵ月 山本 勝美 三年四ヵ月 博
帷子和夫	0	田口 宗作	1	退会者 七年一ヵ月 岩井 昌一 三年八ヵ月 鈴木 晃
栗原 勇喜	3	勝又 政博	3	以下25名略す (59名)
加藤 威	6	荒川 義之	0	
降田 秀二郎	2	関根 征	9	
山岡 延好	3	岸 守	8	
荻野 登茂吉	12	平沢 二郎	4	
小出 昌司	7	黒川 誠	2	
山本 勝美	9	鈴木 経治	5	
小出 公厚	7	加藤 寛	5	
古川 由二	7	間中 忠之	8	
会田 宏	0	岡 良男	0	
皆川 裕三	17	鈴木 茂	0	
多田 好一	1	山田 喜義	2	
染谷 孝一朗	0	山田 芳憲	0	
飯野 道雄	9	岡野 幸男	0	
柴 静夫	1	須賀 智男	0	
須田 俊夫	16	染谷 悟	0	
会田 肇	0	秦 一 生	0	
小川 隆次	9	浅井 清一	0	
長谷川 博忠	18	(43名)		

あと書き

光陰矢の如し、早いものでみずほクラブも草加支部より分離独立し二十五年が過ぎようとしている。その間会のモットーである和氣藹々の中釣技の向上、仲間づくりがなされ釣果にとらわれる事なく共に楽しく、へら鮎釣りに熱中している日々である。これも会長、支部長を中心とした全会員の会を愛する気持ちと、発展を望む心のあらわれであろう。こゝに二十五年間の会の歩みや成績を集大成してみたが、過去を思い返し更に未来への希望を持つてより一層会の発展を願つて進みたいものである。

発行所	日本へら鮎釣研究会みずほクラブ支部
発行責任者	みずほクラブへら鮎会名誉会長
代表者	日本へら鮎釣研究会理事長
編集者	日研みずほクラブ支部長
印刷構成者	〃 〃 〃 〃 支部役員

植木 帷子 義和 勝美 栗原 山本 勇夫 鈴木 和美 茂夫

平成四年 十月 吉日